



愛の手を

パプテスト心身障害児(者)を守る会

第171号

発行責任者
社会福祉法人 パプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害児施設 久山療
育園重症児者医療療育センター
理事長 山田 雄 次
編集責任者 馬 原 哲 治
福岡県粕屋郡久山町大字
久原 1869
☎代 (092)976-2281
FAX (092)976-2172

細く長く、そして未来へ

評議員／福本 順子

あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

新約聖書フィリピ2:13-14

方言たっぶりの久山町長さんの挨拶を定礎式で聞いてから今日まで、久山療育園とは細く長く関わらせていただいたことを感謝します。

福岡から赴任して数年後、大分教会の婦人会や子供達や牧師である夫と共に、ときわデパート前の交差点に立ち街頭募金を何度か行いました。寒風吹きすさぶ日もありましたが、福岡で始まった重症心身障害児と共にある神の園に思いを馳せました。それは「ミットレーベン・共に生きる」を学び始めたときでもありました。

福岡へ戻ってきてからは久山との距離も近くなり、何度か箱崎からチャリで通ったこともありました。4回、5回と積まれては消えて行く熱々の洗濯の山のそばでの作業中に気分が悪くなって早退したこともあった洗濯場の作業など、今は懐かしい風景です。しかし、ボランティア活動を楽しくしているうちに、食事の介助や入浴後の着替えなどは体の柔軟性低下で床にしゃがめず出来にくくなり、多忙にもなった自分の都合に合わせて途切れ途切れのボランティアとなりました。

宗像に転居してからは母教会の車

に仲間の婦人たちと便乗させてもらい、苦手な裁縫を避けてかなりスマート化された洗濯物たみと事務的な単純作業、時折の評議員会などでセンターに通っています。大丸前での街頭募金では、街に立って訴えられない重症児者の方々に代わって「ご協力お願いしま〜す!」と大声で叫びながら、「久山療育園から、共に生きるいのちの快い響きを聴いて下さ〜い」という思いも過ります。

細く長い久山療育園との繋がりを振り返るとき、療育園の充実と発展の歴史と共に、神の促しによって乗り越えて来た山々峰々と、どこまでも広がるいのちの色が見えます。入所から通所、そして在宅支援へとその裾野は広がり、利用者と被利用者のバリアが消えて、すべての人に伸べられている神の愛を知ることの出来る場、オアシスとして。

過去幾つかの施設を訪ねたことがあります。十数年前、エチオピアの「マザーテレサの家」は心に残っている一つです。ひしめき合う様にして重症心身障害児、者、知的精神的障害者たちが生活しているその場が、狭く古い建物ながらも清潔で丁寧に磨かれていたこと、入所者の人数に比して少数のシスターやスタッフたちに笑顔があり、そこにある神の愛と、その愛で働きがなされていることを実感したからでした。

主 張

共同生活介護事業「ケアホームひさやま」(仮称)の開設に向けての思い

理事長 山田 雄次

■重症児者への在宅支援の課題へのチャレンジ■

2012年度は前年度からの継続事業としてNICU(新生児集中治療室)の後方支援事業を視野に入れた7床の増床(契約入所6床、短期入所1床)とその受け入れのための生活棟の新築による3段階の傾斜配置が行われ、年度半ばで中期5ヶ年計画における第1段階の在宅支援プロジェクト事業を終了し、後半から同第2段階の在宅支援プロジェクトの取り組みが始まりました。

この取り組みは既に実施されている①「短期入所事業」、②「重症心身障害児者(以下重症児者)通所事業」、③「相談支援事業」などの

在宅サービスに加えて、新たに④共同生活介護事業「ケアホームひさやま」と、⑤「在宅支援棟」を建設することを通して「重症児者医療療育センター」(以下久山療育園)のセンタースタッフの機能の拡充・強化を計るプロジェクトです。

共同生活介護事業「ケアホーム」は介護を必要とする人に対し、夜間の共同生活の場(居宅)でさまざまな生活の介護(食事・入浴・

排泄その他)を行うサービス事業であり、本来医療の伴った重症児者を対象にしたものではありません。しかし、様々な事情を抱え厳しい状況の中にある在宅重症児者家庭から強い支援の訴えに応え医療的ケアの度合いの低い重症児者(障害程度5・6)の受け入れのための「ケアホームひさやま」の開設の計画が生まれました。「ケアホームひさやま」で夜間生活を送られる利用者には、日中活動の場として園の通所事業や同時に開設される在宅支援棟での「相談支援」の場が備えられ、利用者の生活の質の豊かさに資するサービスが行われます。

多様な障害のニーズにより他の箇所ですさまざまな形の「ケアホーム」の活用が行われてきましたが、厳密な意味で重症児者を対象とした取り組みは全国でも初めてであり、テストケースとしては非成功させたいという思いです。

■共同生活介護事業「ケアホームひさやま」開設に懸ける決意■

この事業は、「在宅支援プロジェクト構想委員会」のもとで、時間をかけて在宅重症児者家庭のニ

ズ調査を行って企画がなされ、「同開設準備室」のもとで事業の内容(運営の収支試算を含め)と設計その他の開設準備が進められ目下進行中です。事業の運営において年間1200万円程度の赤字収支になるという問題がありました。が、開設準備室から提出されたシミュレーションに基づき理事会・評議員会で真剣な協議がなされた後、「ケアホームひさやま」の開設の取り組みが決議されました。

久山療育園は重症児者のいのちを守り、その生活の質の豊かさに資する医療・福祉事業を推進することを至上の使命としています。入所サービスと共に厳しい状況の中にある在宅重症児者に対する支援の必要性は会議出席者共通の認識であり、厳しい運営努力と赤字補填のしつかりした手立てを行うということを条件に、赤字収支となること(特に初期において)を覚悟して、新しい在宅支援の取り組みの課題は受け止めてゆくべきだ、という総意に至ったからです。

■バプテスト友の会との協働の祈りとして■

タイムスケジュールとしては2014年度中に建築工事を完成させ、2015年度からの開設を目指して計画が進められています。一人ひとりそれぞれの立場で課題を受けとめ協働していく訳ですが、私は法人の責任者として、

工事の完成と開設後の運営についての手立て(確実な支援による赤字の補填)を真剣に考えています。理事会・評議員会において「厳しい運営努力と共に、赤字補填のしつかりした手立てを行うということ」を条件として本事業の推進が決ったからです。事業運営の赤字を補填し事業を継続させていくためには出来るだけ広く、多くの人に協力の呼びかけをしてゆかなければなりません。そのことと同時に、久山療育園の支援組織であるとともに園の設立母体であるバプテストコロニー友の会の働きとの連携を深めていくことが大切だと考え、協力を呼びかけていきたいと思っています。

友の会の規約には「①「友の会」は心身に障害を持つ人々やその家庭の重荷を共に担い、人が人として尊重される社会を作り出すための運動体です。」そして「②その運動を具体的に推進していくために久山療育園の開設を助け、その運営について物心両面からの支援活動を行うことを目的にします。」とあり、5000人の支援組織づくりを掲げて活動を開始しました。最初、荒唐無稽で大風呂敷な目標(数字)と思った人もいたと思いますが、平均して一人2400円(一般会員)の友の会費分を乗ずると1200万円となり、「ケアホームひさやま」の運営支援に必要な金額と一致し、今にして初心の思いの確かさに驚かされます。「ケアホームひさやま」の開設時(2015年度)までに全額達成させることは無理としても、5年先(開設3年目の2018年度)には半分の600万円程度の支援を達成させ、精神的な意味でも充足時における「ケアホームひさやま」の事業推進の力となつてほしいと期待しています。

財政的支援の働きに加えて、いま一つ大切なこととして久山療育園の働きを社会に周知させ重症児者のいのちと暮らしを豊かなものにしてゆく「課題の社会化」の働きがあります。施設や親の会との連携をはかり啓蒙活動を通して法律や福祉のしくみを変えてゆくことが運動体として期待されているということです。共同生活介護事業「ケアホームひさやま」に対する財政支援に取り組みつつ、制度の整備、改善に資する活動を推し進めるにはこの事業が赤字収支にならないよう施策の充実をもちたしてほしいと思います。

「人が人として尊ばれる社会(福祉)づくり」を目指す共通の課題を軸にして久山療育園とコロニー友の会は車の両輪のような関係にあり、それぞれ独自の事業と活動の展開が求められていることと思いつつと歩みを進めてゆかなければならないと思っています。

「障害者施策の動向と

久山療育園の取り組み」

センター長 宮崎信義

平成25年度(2013年度)から「障害者総合支援法」が施行されました。これは2009年の政権交代後に発足した民主党政権下の「障がい者制度改革推進協議会」が立案し、2012年度の「障害者自立支援法(つなぎ法)」を引き継ぐ制度とされています。そして「障がい者制度改革推進協議会」は2012年3月を最後に散会しました。策定すべき障害福祉施策は、今後は「障害者政策委員会」が政策決定を担うとされています。

略と園の事業計画や将来計画について述べさせて頂きます。

この「障害者政策委員会」による推進(平成24年5月21日に公布)は、平成23年8月の障害者基本法の改正に根拠を置く委員会です。内閣府による「障害者政策委員会令」で規定されている委員の定数30人が決まりましたが、障害当事者団体から19人を占め、障がい当事者の声を細かくまた正確に反映されることを望みます。その第1回の会合が昨年の7月23日に開催され、「差別禁止部会」を設置することが決定されています。

また平成23年6月24日に「障害者虐待防止法(略称)」が公布され、様々な障がい種別を超えて個人の尊厳を守り、虐待の禁止や国等の責務、虐待からの保護、自立の支援、擁護者に対する支援のための措置が定められています。久山療育園では目で見える虐待を防止することは無論のこと、これまで一般に仕方がないこととされていた身体拘束をしないですむ介護の方法や意識の向上に取り組んでいます。

障害者総合支援法とは

「障害者総合支援法」は平成24年

6月20日に成立し同年6月27日に公布された法律で、正式な名称は「新たな障害保健福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律」と称されます。その概要は地域社会における共生の実現に向けての概要として説明されています。その骨子を以下に列挙します。

①趣旨―障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて、地域社会における共生の実現に向けて、障害福祉サービスの充実等障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するため、新たな障害保健福祉施策を講ずるものとする。

②基本理念―法に基づく日常生活・社会生活の支援が、共生社会を実現するため、社会参加の機会を確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることを法律の基本理念として新たに掲げる。

③障害者の範囲(障害児の範囲も同様)―「制度の谷間」を埋めるべく、障害者の範囲に難病等を加える。

④障害支援区分の創設―「障害程度区分」について、障害の多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示す「障害支援区分」に改める。※障害支援区分の認定が知的障害者・精神障害者の特性に応じて行われるよう、区分の制定に当たっては適切な配慮等を行う。

⑤障害者に対する支援―重度訪問介護の対象拡大。共同生活介護(ケアホーム)の共同生活援助(グループホーム)への一元化。地域移行支援の対象拡大。地域生活支援事業の追加。

⑥サービス基盤の計画的整備―地域生活支援事業の実施に関する事項についての障害福祉計画の策定など。市町村は障害福祉計画を作成するに当たって、障害者等のニーズ把握等を行うこと

障害福祉施策の動向について

以上についての施行期日は平成25年4月1日とされていますが、一部具体的な手続きについては施行日を平成26年4月1日としています。この法律改正の主旨について、平成24年10月11・12日に開催された第16回全国重症心身障害日中活動支援協議会で行われた厚生労働省障害福祉課地域移行・障害児支援室室長補佐による行政説明では、以下のように説明されています。

この施策は、平成23年8月9日に総合福祉部会の提言に追加提案された「骨格提言素案」として述べられたもので、ご承知かと思いますが施策の重要な時点ですので以下のように再度確認しておきたいと思っています。

①障害のない市民との平等と公平―障害があっても市民として尊重され、誇りを持って社会に参加するためには、平等性と公平性の確保が何よりの条件となる。

新法がこれを裏打ちし、障害者にとって新たな社会の到来を実感(もしくは予感)できるものとする。

②谷間や空白の解消―障害の種類によっては、障害者福祉施策を受けられない人、制度の谷間に置かれている人たちがあり、制度間の空白は、学齢期での学校生活と放課後、卒業後と就労、退院後と地域での生活、働く場と住まいなど、いろいろな場面で発生している。障害の種類間の谷間や制度間の空白の解消を図っていく。

③格差の是正―どこに暮らしを築いても一定の水準の支援が受けられなければならない。また、障害者種別間の制度水準についても大きな隔たりがあり、合理性を欠くような格差については是正をめざす。

④放置できない社会問題の解決―わが国では依然として多くの精神障害者が「社会的入院」を続け、知的障害者等が地域での支援不足による長期施設入所を余儀なくされている。また、公的サービスの一定の広がりにもかかわらず障害者への介護の大部分を家族に依存している状況が続いている。これらを解決するために地域での支援体制を確立するとともに、効果的な地域移行プログラムを実施する。

⑤本人のニーズにあった支援サービス―障害の種類や程度、年齢性別などによって、個々のニ

ズや支援の水準は一樣ではありません。個々の障害とニーズが尊重されるような新たな支援サービスの決定システムを開発して行き、支援サービスを決定するときに、本人の希望や意思が表明でき、それが尊重される仕組みにする。

⑥安定した予算の確保―制度を実質化させていくためには財政面の裏打ちが絶対的な条件となり、障害者福祉予算の水準の当面の目標としては、OECD加盟国（工業先進国のグループ）における平均以上を確保する。

在宅支援プロジェクトの継続

久山療育園では高齢化し重度化する在宅重症心身障害児(者)の受皿として策定していた「在宅支援プロジェクト」第一次基本計画(医療病床の増床、短期入所病床の枠の拡大)が昨年度に達成されましたが、これは福岡県障害者福祉課の呼びかけにも対応するものでした。

更に在宅児者の入所待機と毎年深刻になる高齢化に対応すべく「在宅支援プロジェクト第二次基本計画」として、地域福祉・在宅支援の基地形成を推進するために、在宅支援棟の建設及び別施設として「ケアホーム・ひさやま」(共同生活介護事業)の併設は2015年度を目標に計画しています。

①「在宅支援棟」の建設―訪問看護、居宅介護(ヘルパー派遣事業)、第2療育室

「相談支援事業」の拡大やより

広範な地域福祉のニーズは地域の中で久山療育園の役割を考慮しつつ必要な規模で展開して行きます。

重症心身障害児者通園A型↓2012年度から児者の通所支援事業の併設への転換が求められているが、「児童発達支援事業」(18歳未満)＋成人通所事業(生活介護ないし在宅療養介護)の併設(当面は定員19人)が必要とされ、そのうち10人はケアホーム入居の方々の日中活動支援として利用して頂く。※専門職をはじめすべての職員が大切な役割を担っています。医療の面では常勤医師が不足した状態が続きますと先ず短期入所・通所事業・訪問事業の「在宅支援三本柱」の維持・発展に多大の影響が及びます。

②「ケアホーム・ひさやま」(共同生活介護事業)の併設

第一次基本計画の医療病床増設の際に調査した入所待機者には約20人の方々がおられました。今後は医療病床の増設は限界でもあり、また地域生活に近い居住空間の創設という目的で行政の施策とも合致する「ケアホーム」(共同生活介護事業)の法人内の併設を第二次基本計画の柱として策定しています。以下にその概要を提案致します。

「ケアホーム・ひさやま」の概要

①「ケアホーム・ひさやま」のイメージ

②「ケアホーム・ひさやま」(共同

生活介護事業)の概要

(1)利用者像：障害支援区分Ⅱ6、5。スコア6点以下(経口摂取全介助＋体位変換まで)

(2)日中活動は「通所事業」「訪問事業」「相談支援事業」(在宅支援棟)を利用する。

(3)合併症で入院が必要な場合は、本体の短期入所病床・専門病院になるが、回復し帰還できることを保証したい(ケアホームもしくは本体病床の契約ないし短期入所の継続)。その為にも本体(医療病床)とケアホーム(福祉施設)の可変的な運用を図る。この点に関しては保護者や行政・地域の深い理解を必要とします。保護者会(役員会・総会)では具体的に説明し意見交換を行っていきます。

(4)痙攣ありの人でも服薬でコントロールされていることが前提となる。重積がある人は医療病床が対象となる。

(5)重度障害児スコアや医療度が重度化した場合、一時的ないし恒常的に医療病床に移って頂くことも視野に入れる。この場合も十分に保護者(親権者・後見人)の意思を尊重する。

(6)ADL援助・食事・排泄・移動などの必要度と職員配置(職種・人数)の整合性を図る。

(7)医療的ケア―特別支援学校や介護福祉施設に準じて介護職によるケアは三行為(咽頭前吸引・経管栄養の介助・自己導尿の補助)の範囲内であることを原則とする。

とする。

(8)同性介護―男女比は原則として1対1。↓夜間の介護者も男女各1人を配置。

(9)特別養護老人ホームやグループホーム、家庭での看取りと同様に希望されればホームでの看取りも視野にいれたい。この際も自然の看取りが可能な病状となり、実際には頻度は少ない。実際には10人に1〜2人(高齢者など)と予想される。

(10)ケアホームの建設と運営が可能となる経営分析と予算・現在の試算では年間約1,200万円の赤字が見込まれる。また立ち上げ時の公的助成(補助金)や消費税及び建築コストの高騰が予測される。広く募金を呼びかけると共に、経常会計における支出、特に人件費の再検討をお願いしたい。法人・施設共に収支の均衡を図るが、一方で保護者の切実な声に応える思いで策定された「在宅支援プロジェクト基本計画」であるので、厳しくかつ合理的なケアホームの運営を実践した上で法人全体からのバックアップと支援して下さる方々の募金をお願いしたい。

②「ケアホーム・ひさやま」の利点と課題

(1)利点―医療病床入所よりも家庭生活に近いこと、家族が自由に訪問できること、日中と夜間が明確に区別されること、占有スペースが広いことなど本体施設入所(入院)とは異なる豊かさに

も注目して頂きたいと思っています。

(2)課題―自己負担金が入院より多い(但し本人の障害年金の範囲内であり、手許金が残る)。本体施設(医療機関)の医療的バックアップとそれを支える資金(合理的な経営、公的助成や制度、募金や支援金とマンパワーの確保を模索しています)。

(3)問題解決の可能性―法律や制度が重症心身障害児(者)の共同生活介護事業を可能にするように改善されることが一番ですが、現状ではまだ達成されていません。「障害者プラン」や「社会福祉基礎構造改革」が実体となるためにも守る会と共に行政に働きかける必要があります。また利用されるご家族にも、お子様が「医療病床」と「ケアホーム」のいずれが適しているかお考え頂き、共同体の中で分かち合って頂きたいと願っています。

おわりに

以上、未だ法律や制度が明示されず、また施設(日本重症心身障害福祉協会)でも討議が続いていますが、当面の課題と見解を述べてみました。特に在宅重症児者の受皿を準備すること、行政施策が追い付かない地域福祉の状況の中で、待ったなしの支援に久山療育園として最善を尽くすことをいつも考えています。利用される皆様、支援して下さる読者の方々、どうかご協力をお願いいたします。

2013年度(平成25年度)予算

2013年3月26日(火)開催の2012年度第3回評議員会、第6回理事会において2013年度の予算が審議され承認されました。予算の概要については、以下の通りとなります。

2013年度 資金収支予算書(法人合計) 自2013年4月1日 至2014年3月31日

単位：千円

科 目 名	2013年度予算額
《事業活動による収支》	
(収入の部)	
児童福祉事業収入	3,090
障害福祉サービス等事業収入	420,140
医療事業収入	725,480
経常経費寄附金収入	15,700
受取利息配当金収入	2,500
その他の収入	10,240
事業活動収入計①	1,177,150
(支出の部)	
人件費支出	812,514
事業費支出	110,820
事務費支出	73,727
事業活動支出計②	997,061
事業活動資金収支差額③＝①－②	180,089
《施設整備等による収支》	
(収入の部)	
施設整備等寄附金収入	10,000
施設整備等収入計④	10,000
(支出の部)	
固定資産取得支出	32,632
施設整備等支出計⑤	32,632
施設整備等資金収支差額⑥＝④－⑤	△ 22,632
《その他の活動による収支》	
(収入の部)	
積立資産取崩収入	27,843
サービス区分間繰入金収入	7,576
その他の活動収入計⑦	35,419
(支出の部)	
積立資産積立支出	185,300
サービス区分間繰入金支出	7,576
その他の活動支出計⑧	192,876
その他の活動資金収支差額⑨＝⑦－⑧	△ 157,457
予備費支出⑩	0
当期資金収支差額合計⑪＝③＋⑥＋⑨－⑩	0
前期末支払資金残高⑫	226,738
当期末支払資金残高⑪＋⑫	226,738

I. 全体として

- 2012年度より増床された基準に基づき、入所については、契約入所87床、措置入所1床、短期入所6床、計94床体制で行う。通所については、平均利用者数を16名→19名へ増。また、未就学児対象の「児童発達支援事業」を障害児等療育等支援事業「宇宙(そら)」より移行編入し、開始。
- 「在宅支援プロジェクト」第二次基本計画に基づき、用地購入、設計業者等の支払いを実施する。費用は将来計画特定預金より支出。
- 診療報酬、障害福祉サービス、措置費収入については94床を基準とし予算作成。また、事業収支をより明確にする為、医療費収入は本部会計から、療養介護・医療型障害児入所施設事業へ移行する。
- 会計基準を「新会計基準」へ移行し、各事業毎に区分を設け、それぞれの収支を明確にする。当センターは1拠点・12サービス区分となる。なお、在宅支援プロジェクト関係の支出は本部会計に計上する。
- 「在宅支援プロジェクト」の建設の為に募金を行う。期間は2013～2015年度の3ヶ年とする。目標額3,000万円。

II. 収入について(前年度予算対比)

- 医療事業収入については入院(520万円増)・外来(580万円増)・歯科診療(120万円増)収入共、実績増により、約1,200万円増。
- 障害福祉サービス(入所)においては、昨年度より開始の「医療型障害児入所施設事業」「療養介護事業」について実績により約600万円増で計上した。
- 通所部門においては、「生活介護」「地域生活支援(日中一時)」「児童発達支援・放課後等デイサービス」の多機能事業となり、総額約800万円増で計上した。
- 短期入所収入は実績増に伴い約400万円増で計上した。
- 障害児等療育支援事業収入については、実績増により約200万円増で計上した。
- 「在宅支援プロジェクト」計画による建築のための募金として、3ヶ年の募金目標3,000万円の内、2013年度は、1,000万円を法人本部の施設整備等寄附金収入へ計上する。

III. 支出について(前年度予算対比)

- 人件費については医療・福祉基準に対応する為、総額約3,200万円増で計上した。主たる要因としては常勤医師1名・常勤薬剤師(2013年1月より採用)1名の採用等人員基準を満たすため増、また定期昇給、社会保険料対象人員増・社会保険料率改定・退職共済掛金人員増等による。
- 事務費・事業費については、総じて約300万円増。増加要因としては、電気料値上げ(14.8%)に伴う水道光熱費増・自動車燃料費の高騰・LED電球交換工事等があげられるが、業者見直し等による減額の要因もあり総じて上記の増にとどまった。
- 施設整備等による主たる支出として、在宅支援プロジェクト関係では、用地購入・業者支払で約2,800万円を固定資産取得支出として計上。器具・備品に於ける主たるものは、生命監視装置等主に医療備品で総額約500万円。尚、歯科レントゲン導入は、リース契約で行う。

IV. 積立金

将来計画積立金1億438万円、施設整備積立金7,917万円、人事管理調整積立金17万円、奨学積立金158万円、合計1億8,530万円を計上した。

※久山療育園 拠点区分(1拠点)

法人本部、療養介護事業、医療型障害児入所施設、短期入所事業、生活介護事業、地域生活支援事業、児童発達支援・放課後等デイサービス事業、指定一般相談支援事業、障害児相談支援事業、指定特定相談支援事業、障害者相談支援事業、障害児等療育支援事業(12サービス区分)

ご協力ありがとうございました

(2013年1月1日～3月31日) 敬称略

【法人会計】

一般献金

安川研二 荻本光雄 山口正夫 日本バプテスト四日市教会 鶴川シオン幼稚園 光の丘幼稚園 日本バプテスト連盟諫早キリスト教会 長崎銀屋町教会 めぐみのその幼稚園 日本バプテスト春日原キリスト教会 恵星幼稚園 周船寺第二幼稚園 みつば幼稚園 筑波バプテスト教会 教会学校ジュニア科 日本バプテスト鹿児島基督教会 日本基督教団福岡警固教会 法蓮寺仏教婦人会 花田京子 井上ひろみ 桜ヶ丘幼稚園 学校法人聖泉学園潮来幼稚園 別府国際バプテスト教会 荻田キリスト教会 学校法人大塚平安学園ドレーパー記念幼稚園 西南学院中学校母の会 西南学院高等学校母の会 天使幼稚園 愛隣幼稚園 日本キリスト教団東郷教会こどもの教会 筑紫教会 くずめよし あゆみの家キリスト教会 日本基督教団旭東教会 関東学院のびのび園 日本基督教団東村山教会 聖学院小学校児童会 宗教部 福岡西部バプテスト教会 福岡女学院看護大学宗教部 豊前キリスト教会 南光台キリスト教会 西落合キリスト教会 水戸バプテスト教会 女性会会長山下美和子 田隈バプテスト教会 城崎仁郎 日本基督教団門司大里教会 神戸西バプテスト教会 日本バプテスト教会手作り品売上 日本バプテスト伊集院キリスト教会 学校法人西南学院 日本基督教団福岡弥生教会子どもの教会 高知伊勢崎キリスト教会 市川幼稚園 ひかりの家学園 日本基督教団福岡城東橋教会 バプテスト久留米キリスト教会 福岡女学院幼稚園 真愛幼稚園 八幡バプテスト教会 学校法人頌恵学園旭幼稚園園長谷口繁一 田上洋子 日本基督教団福岡中部教会 日本バプテスト女性連合 博多高等学校 福岡城西キリスト教会 恵泉バプテスト教会 西南女学院 日本基督教団奈良高畑教会 SDA土佐山田キリスト教会 関西学院宗教活動委員会 日本バプテスト広島西キリスト教会 銚子諸聖徒教会 学校法人西南幼稚園母の会 日本バプテスト連盟徳島キリスト教会 学校法人稚内ひかり幼稚園 日本バプテスト連盟南名古屋キリスト教会 日本バプテストシオン山教会 大場康喜 大森孝子 福岡女学院中学校高等学校宗教部 栗田昌直 日本基督教団芦屋岩園教会 青山学院中等部 日本バプテスト広島キリスト教会 女性会播磨真美 鳴友学園女子中等高等学校奉仕委員会 八幡西教会 西南学院高等学校 西南学院中学校 日本バプテスト連盟高松常磐町キリスト教会 末浦佐和子

佐伯年子 窪田次男 長井里紗 池上千代子 笹倉典子 匿名 宇美キリスト教会 阿部直子 日本バプテスト連盟企救バプテスト教会 東洋英和女学院中高部宗教委員会 日本基督教団隠岐教会 聖路加国際病院礼拝堂 百合丘キリスト教会 茗荷谷キリスト教会 日本バプテスト春日原キリスト教会 栗ヶ沢バプテスト教会 平尾バプテスト教会 又野貴志 日本バプテスト篠崎キリスト教会 大牟田バプテスト教会 久山町美化助成金 松尾栄蔵 安藤榮雄 西商店西加代子 西南学院バプテスト教会兄弟会 宮古バプテスト教会 堺バプテスト教会婦人会 日本キリスト教団福岡女学院教会 (宗)日本バプテスト連盟平針キリスト教会 大牟田フレンドシップキリスト教会 久山療育園献金箱 手作り品売上

(1, 867, 619円)

指定献金

(2, 000, 000円)

【施設会計】

一般献金

今村さち 自由ヶ丘伝道所 日本基督教団武雄教会 日本聖公会沖縄教区 宮古聖ヤコブ教会 古後明朗 岡久凱・恭子 江波キリスト教会 関敬子 松原こいつじ幼稚園 (82, 000円)

献品

鳴戸陽介(本)宮崎信義(はがき)山本俊次(タオル)富里キリスト教会女性会(エプロン)児湯キリスト教会(石

鹼・バスタオル・タオル・おしぼり・雑貨)久山療育園保護者会(靴下・敷きパッド)高瀬孝介(お米)安成由岐子(絵本)平川成(毛糸靴下・手作バック)日本バプテスト広島キリスト教会(タオル・バスタオル・おしぼり・石鹼)日本バプテスト連盟仙川キリスト教会(ぐるーぷじょい)(オシボリ・雑巾)日本バプテストキリスト教目白ヶ丘教会女性会(石鹼・タオル・オシボリ)平川博(プリンター用インク)上尾キリスト教会女性会(石鹼・タオル・おしぼり)ガールスカウト福岡県連はかた地区(タオル・紙おむつ・タオル他)高倉博子(手作り品手提げ・巾着・バッジ・ティッシュ入れ・壁掛け)

(193, 543円)

【コロナー友の会献金】

(3, 300, 246円)

【コロナー友の会扱い献金】

日本バプテスト四日市教会 千葉バプテスト教会 福岡有田バプテスト教会 尼崎バプテスト教会 宝塚バプテスト教会 姪浜バプテスト教会 松本蟻ヶ崎キリスト教会 折尾バプテスト教会 日本バプテスト浦和キリスト教会 日本バプテスト連盟かたえキリスト教会 福岡西部バプテスト教会 洋光台キリスト教会 日本バプテスト連盟堺キリスト教会 西福岡のぞみキリスト伝道所 日本バプテスト連盟市川大野キリスト教会 日本バプテスト女性連合 今治バプテスト教会 東京北キリスト教会 久留米荒木キリスト教会 川崎

バプテスト教会 古賀バプテスト教会 下山由美枝 下関バプテスト教会 中島文昭 中島乃婦子 富野バプテスト教会 南小倉バプテスト教会 吉田圭子 直方バプテストキリスト教会 女性会 花野井バプテスト教会 日本バプテスト連盟東大阪キリスト教会 直方バプテストキリスト教会 日本バプテスト連盟宇都宮キリスト教会 大泉バプテスト教会 平尾バプテスト教会 長崎バプテスト教会 小松良一 常盤台バプテスト教会 日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会 日本バプテスト春日原キリスト教会 日本バプテスト連盟堺キリスト教会婦人会 (748, 859円)

献金申込送金先

社会福祉法人

バプテスト心身障害児(者)を守る会

〒811-2501 福岡県粕屋郡久山町大字久原 1869

久山療育園重症児者医療療育センター内

☎ (092) 976-2281 (代)

《郵便振込》郵便振替【01720-8-24404】

《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888

個人、会社共に免税の対象になります。

メール: hisayama@mpd.biglobe.ne.jp

支援者からの声

第五回



「久山療育園について思うこと」

西南学院バプテスト教会員
西南学院大学名誉教授
村上 隆太



村上 隆太

普段、取り立てて何も具体的な支援をしていないわたしが「支援者からの声」欄を書くことにはいささかおこがましい思いがあります。久山療育園を訪問することは以前からあったのですが、それはせいぜい年に一度、開園祭に西南学院バプテスト教会聖歌隊のメンバーとして参加するくらいでした。もちろん、療育園の創立時からその園のことは知っておりまして。元理事長の川野直人さんや理事の岡部元英さんとは大学時代に同級でありました。当時は西南学院大学文学部のなかに英文科と神学科があり、両学科の共通科目のクラスには数歳年上の神学生と机を並べて勉強した「同級生」だったのですが、その後も川野さんや当時の神学生の後の動向については比較的に良く情報を得ていました。ですから、川野さんが久山療育園を立ち上げたことを聞いたとき、すごいこと

をするものだ、普通のひとにはできないことを、良く思い立たれたものだ、と驚きと敬意の念を抱きました。現在も園を訪問するたびに、療育園で職員として働いておられる方がたの献身的なお働きに感心するのです。

改めて考えてみると、心身障害児(者)の施設は介護と治療の両面をもっているとは私は理解しています。わたしは大学生のころから視覚障害児や肢体不自由児の施設をワークキャンプのグループとしてしばしばお訪問しお手伝いをしていました。現在は、福岡市ことも総合相談センターの支援の「ことも夢基金アートのプロジェクト」の活動をしています。このようなさまざまな施設を訪れるときに、そこで働く皆さん、保護者の方がたのご苦労を痛切に感じます。いわゆる3kといわれる仕事を一生懸命しておられるのを見て、どのような動機からその働きをされるのだろうかという疑問がいつも湧いています。

心身障害児(者)の親の一生懸命な気持ち、それを助けようとするのべる方がたの親切心、あるいは障害児(者)に対する「憐み」(主イエスもその気持ちを示され癒しの奇跡をされた)、そのような気持ちすべてが久山療育園に集まっているのかも知れません。このような人たちの働きによって障害児(者)の生活・健康が保たれ、親、家族の重い負担が軽減されているでしょう。この地域に絶対必要だった施設が、川野さんの発案とバプテスト教会の支援から

できたことは本当に「良かった」の言葉に尽きると思います。

わたしは、時折、入園(在園)している障害児(者)の気持ちを考えてみるのです。このひとたちの多くは、ことばには出しませんが、その表情から今、快適な生活を送っていることに満足している様子がわかります。それと同時に、この人たちにとって「家庭」とは何だろうか、やはり「自分の家」が良いだろうか。長く住んでいると療育園が「家」の感覚を与えているのだろうか、これはわたしにはわかりません。もともと、この比較の意味がないことかもしれない。わたしは問題にしているのは「日常性」と「非日常性」がひとの心に与える影響のことです。

もう一つのわたしの問題は、「障がい者」には実は多くの種類と程度があつて、ある人たちは社会の支援を受け、ある人たちは受けられていないという現実です。たとえば発達障害児だった人たちが大人になり社会で働くことができるようになったとしても、法律による障害の認定がない軽度の人たちには支援制度もないのが現状です。そのほかにも、精神障害者の問題もあります。(これについては、わたしは語るだけの知識がありません。)わたしは、久山療育園を支援すると同時に、他の障害者についても心を向ける必要があると感じています。

久山に射した光は、多くの支援者の皆さんの働きでここまで進んできました。久山町の支援にも感謝です。(現町長は西南学院大学の卒業生です!)しかし、何にもまして天の父なる神様のお守り、主イエスのお恵みに心からの感謝をささげたいと思います。

末尾ながら久山療育園の発展をお祈りいたします。



藤田 英彦

知恵は戦いの武器にまさる。
しかし、ひとりの罪人は多くの
良きわざを滅ぼす。

伝道の書9:18

安倍首相は、国会の冒頭演説で指を一本突き出し豊かな国を目指すとして「世界のNo.1になる」と得意です。チョット待てよと考えます。今私たちの国に本当に必要なのは、強い国、豊かな国として世界のNo.1になることでしょうか?

確かに景気回復は大切です。しかし、もっと大切なのは世界が戦争をなくし、平和で、差別をなくして互いに助け合うことを目指すべきではないでしょうか。今後の選挙で、憲法96条を変えて憲法改正のハードルを低くしようと云う声を聴きます。その魂胆は戦争の出来る国にすることのようです。新憲法によって築き上げて来た平和を打ち壊し、

再び明治以来の「大日本帝国憲法」や「教育勅語」の天皇制軍国主義を推し進めて、遂に日本を破壊してしまった昔に帰ろうと云うのでしょうか。これは「改憲」と云うよりは「壊憲」と云うべきです。

また、漸く定着しつつある「国民主権」の民主国家も破壊される危険がある第1章や第3章の生きる権利、人権。個人の権利、思想・良心、宗教、表現、学問等々の自由、健康で文化的な生活権などの諸権利が、時の権力の都合のよいように変えられようとしていることを恐れます。

紀元前4〜3世紀に書かれたと云われるイスラエルの賢者コーヘレスの言葉を、21世紀のこの国の為政者たちに耳を傾けて貰いたいと願います。

“そこでわたしは言う、「知恵は力にまさる。しかし、かの貧しい人の知恵は軽んじられ、その言葉は聞かれなかった。静かに聞かれる知者の言葉は、愚かな者の中の司たるものの叫びにまさる。知恵は戦いの武器にまさる。しかし、ひとりの罪人は多くの良きわざを滅ぼす。」(17、18)”

2012年度「療育研究発表会」

2012年2月13日、今年も職員による医療・療育・栄養給食・施設管理などの年間を通じた研究発表会が行われました。久山療育園の働きの向上をめざして積み重ねられた研究のテーマをご紹介します。

口腔衛生研究班

「直接介護職員への歯科への関心と介助の実状に関するアンケート報告」

歯磨き介助業務に携わる直接介護職員へ「歯科への関心と介助の実状に関するアンケート」を行い、介助者側の問題や課題を抽出した。

リハビリテーション研究班

「コミュニケーションサークル活動の紹介と課題」

固定された小集団での活動を通じて、感情や意思の表出の機会をつくり、発声や発語を促し円滑なコミュニケーション方法を獲得できる。また、活動を通じて他者との交流を楽しめる場として実施している内容と経過を紹介し、課題と今後の展望を考察した。

めぐみ棟看護研究班1

「人工呼吸器装着患者の看護ケア」
慢性呼吸不全の急性増悪を来した人工呼吸療法を余儀なくされた、T氏の看護ケアの実践を通して呼吸生理や人工呼吸の基礎知識

給食サービス研究班

「健康特に骨粗鬆症・骨折予防に対する通所利用保護者の意識向上を目指す」

2012年度に全利用者の骨密度測定が行なわれ、個別の骨粗鬆症・骨折のリスクが明らかになった。通所利用者は入園利用者よりも骨密度測定値が低かったため、通所利用者保護者に健康に関する意識調査と学習会を実施した。

在宅支援研究班

「グループ活動の質の向上を目指す」

療育活動は、利用者にとって社会体験の場であり、楽しみの場でもある。しかし、利用者の医療度が高くなってきている。医療上より重症化する通所利用者を考慮して活動単位を3つに分けた。今回3つのグループの活動内容を比較検討した。

めぐみ看護研究班II

「長期間カニューレ留置による安楽な呼吸への取り組み」

呼吸障害が高度化し長期間カニューレを留置している利用者は、さまざまな合併症を起こしやすい、特に気管内肉芽や気管内腕頭動脈瘤による大出血が懸念される事例について、カニューレの固定方法や吸引手技など看護ケアを見直した。

看護師長会

「久山療育園の年次死亡推移と看護体制の変化」

当センターは開設以来36年を過ぎ死亡者数は合計44名となり、その86%が大島の分類1であった。その後医療ケアの増加や高齢化に伴い、施設改築時重症観察室を設けた。今回死亡原因、死亡者数の変化と看護体制との関連を調査した。

学生指導研究班

「実習指導者の意識調査」

重症児施設での小児看護学実習は実習生にとって対象の年齢が小児として捉えにくいという問題がある。加えて疾患や発達の特殊性から受け持ち対象者の全体像が把握することに苦心している。実習指導者の業務内での位置づけや、評価基準にばらつきがある。そこで指導者の実習指導に対するアンケート調査を実施した報告。

LCU研究班

「生活重点ユニット(LCU)での生活の中で見られた利用者の変化」

新たな傾斜配置における「生活重点ユニット(LCU)」を開設(6つの個室と2つの2人部屋、共有スペースとミスト浴槽を完備した浴室など)した新しい環境の中で生活が始まった利用者にとどのような変化が見られたのか、今回変化が著明に見られた事例を通しての考察。

めぐみ棟介護

「肝臓病のある利用者への生活を考える」

肝臓病の診断を受けた利用者に対し、限られた時間の中で、少しでも充実した日々を過ごして欲しいと考え、普段あまり体験することの出来ない外出サービスを計画し、本人の体調に合わせ活動内容を立案し実践した報告。

管理棟研究班

「電子決済業務の現状と改善」

2011年6月より決済に伴う大量のペーパーを削減し、決済の迅速化をはかり業務の省力化へと繋るために電子決済管理システムを導入した。約二年間の電子決済管理システムを運用して、起案者及び決裁者から出された意見を分析し今後の省力化へつなげていくための検証。

ひかり棟介護研究班

「個人個人にあったオムツを考える」

重症児者は、側彎や変形などの身体的特徴が見られ個々に合わせたオムツのサイズ当て方に工夫が必要である。オムツの全面的な変更に当たり、個人個人にあったオムツカバのサイズを見直し、動く事によるズレ及び見直した事による尿漏れの変化を検証した。

リラクゼーション研究班

「リラクゼーション10年間の取り組みを振り返って」

アニマルセラピーを中心に10年間活動してきた。評価方法としてバイタルサイン、利用者の表情、体幹緊張度、唾液中の唾液アミラーゼ値で評価してきた検証。

(2012年度研修委員長

めぐみ棟師長 百本)



発表者からの報告

昨年度3月に九州大学の百年講堂にて、九州地区重症心身障害研究会が行われました。

その研究会に発表者として参加させていただきました。

私の属する班の発表テーマは「動く重症児者のより安全な空間作り」と題し、動きのある重症児者に視点をあてた研究を行いました。

昨年度は、日中自分の意志で動ける利用者と動けない利用者の生活スペースをパターションで区切り(住み分け)、安全に生活ができる環境作りを行ってきました。しかし、パターションを使用し、フロアーを区切った事によって死角が出来、見守りがなかなか行きとどかず、事故が起こりそうな状況が多々ある...というのが現状でした。また、午前中の住み分けもなかなか行えず、朝のリーダーの業務内容である整容を行いながらの見守りは、見守りに集中できず難しいものでありました。

そこで、まず見守り位置を変更し、フロアー全体を見れる位置から見守りを行うようにしました。

また、午前中のリーダー業務内

容であった整容を深夜明けの支援員の業務に変更する事で見守りに集中でき、午前中の住み分けも余裕を持ち行えるようになりました。日中も見守り位置を変更した事により職員にも安心感が生まれ、また広い位置からの見守りにより以前より早く危険に気付く事が出来る様にもなりました。

他の施設の発表や、ひかり棟ならではのこの研究の発表を通し、他の施設でも同じような事が起こっており同じく住み分けを行っている施設があるという事を知り、利用者はどうしたら安全に生活できるのか・どうしたら事故を無くせるのか等安全な空間作りについて更に考え、もっと深めていかなければならないと改めて感じました。

他の施設の発表も考えさせられるものが多く、今後当センターにも取り入れていけたらと思います。

(ひかり棟介護福祉士 新木)



発表者からの報告

3月2日、九州大学にて「管理費(水光熱費)のコスト削減のために」と言うテーマで発表をしました。その発表の内容を記載します。

当センターでは、全面改築工事を行い2008年9月に完成した。新園舎の延床面積は旧園舎の約1.6倍となり、水光熱費の高騰が予想された。そのため職員のコスト意識を高めるために絶えず数値での情報を提供し併せて様々なかたちでのコスト削減に取り組み一定の成果があがった。

【目的・方法】

新園舎と旧園舎の水道光熱費の推移を比較検討し分析する。①旧園舎(改築工事前2004年4月～2008年9月までの水光熱費推移の調査②新園舎(改築工事後)2008年10月～2011年12月までの水光熱費推移の調査を行った。

【結果】

電気代についてみると、2004年度～2005年度(改築前)の2カ年間は約1,687万円、2009年度～2010年度(改築後)の2カ年間は約2,194万円と、1.3倍と当初予想した1.5倍

職員の異動

(2/25/7)

【退職】

▽志満秀武(事務局長)▽宇佐川瞳(調理師)▽永久井藍子(理学療法士/嘱託、契約終了)▽上原かおり(理学療法士/嘱託、契約終了)▽武田清香(准看護師/非常勤、契約終了)▽北古賀由美(療育員/非常勤、契約終了)▽斉藤せい子(調理員/非常勤、契約終了)以上3/31付

【採用】

▽河野幸子(歯科衛生士/非常勤)3/1付▽古城佳彦(事務部総務課員)3/8付▽入岡陽平(理学療法士)▽松永智行(理学療法士)▽川嶋愛(看護師)▽野邊楓(介護福祉士)▽櫻井あや(保育士)▽山藤朋子(調理師)▽宮嶋梢江(調理師)▽谷相裕之(看護師)▽肥後橋久美子(准看護師/非常勤)以上4/1付▽渡辺浩行(医師、診療部長)4/15着任▽川田泉水(看護師)5/7付

お働きに感謝します

—退職職員からのメッセージ—

こちらに入職してからあつという間に4年の月日が経ちました。皆さんの笑顔や優しさに支えられて働く事が出来ました。感謝です。ありがとうございました。

(ひかり棟看護師 武田 清香)

(設備管理 二宮)

入園者さんとともに



入学式

「ひかり棟増床から1年を
振り返って」

2012年4月23日より皆様のご協力を頂き、ひかり棟生活重点病棟（LCU）が始動しました。

早いもので、もう1年が経つのか…と振り返っています。

当時、今まで慣れ親しんだ建物から新しくLCUを利用される方々はきつと戸惑われるんじゃないかと心配していました。が、皆様驚くほどスムーズに新しい生活に馴染んでおられた印象があり、ほっと胸をなで下ろしていたことを懐かしく感じます。

LCUには6つの個室と2つの2人部屋、そして皆さんで一緒に過ごせるデイルームがあります。それぞれの個室で好きな事をしながら過ごしたり、保護者の方と面会の時間を楽しんだり、余暇時間



活動写真：クッキング

をそれぞれでくつろぐ時間もありますが、朝食後の朝の会、午前の設定活動の時間には、皆さんで集まり、顔を合わせられるような機会を作っています。今ではこちらから声を掛けなくても、時間になれば自然とデイルームに集まって頂けるようになりました。入園者様同士のコミュニケーションもこの時間に多く見られ、とても微笑ましい姿を拝見でき、嬉しく思っています。また、活動では四季折々にちなんだ活動を少人数でじっくりと楽しませて、次はどんな活動を行おうかと楽しみに計画をしています。

2013年度からは、ひかり棟療育重点病棟の入園者の方をお迎えして活動を展開し、一段と楽しい時間を提供できるように工夫もしていく予定です。LCUを利用される方がこれからも充実した時間を過ごして頂けるよう努めさせていただきます。是非みなさんもお時間がある時にLCUへ遊びに来てください！

(ひかり棟介福祉士 吹田)

イースター行事

四月五日。イースターというイエス様の復活祭に参加しました。今年はいかり棟で風邪がはやり、めぐみ棟のみで行われしました。第一部では、山田理事長による礼拝のあと新人紹介がありました。毎年新人が全身タイツで踊ったり、歌ったりして自己紹介すると聞いていたので

と交流したり、一緒に楽しんだり、私自身も学ばせていただいていることも多いと思います。これからまた、運動会や夏祭り、クリスマスなどたくさんのイベントを経験しながら、みなさんと楽しい時間を共有したり、新しい出会いに感謝しながら過ごしていきたいです。

(めぐみ棟看護師 川嶋)

キドキしていました。今年には頭にタマゴの形をした冠を付けて、白いかわいいうスモックを着てドリフターズの聖歌隊で登場しました。そして、一人ずつ自己紹介と早口言葉を行いました。早口言葉をきちんと言えた人に金のお花、少しつまずいた人に銀のお花がもらえます。新人は、自己紹介以上に早口言葉が言えるかわナワナしていました。が無事に自己紹介を終えることができました。入園者と職員の方々の笑顔を見ると、ドキドキや恥づかしいという殻を破って楽しいという気持ちが出てきました。

久山療育園は、たくさん
のイベントがあります。
イベントを通して入園者



新しく入職しました!!



「今年も一年

よろしくね!!」

今年度から宇宙(そら)は、児童発達支援事業に移行し通所に仲間入りしました。これからは通所の皆さんと一緒に、運動会や園外活動等、色々な行事に参加します。

宇宙の活動日は、水曜日と木曜日に分かれ、水曜日は拓磨くん、あやちゃん、寿也くんの三名。木曜日は、花ちゃん、悠人くん、更玖くんの三名で楽しく活動しています。時には、元気に身体を動かして遊んだり、園内の色々な部屋を覗いてみたりしながら活動を楽しんでいます。もし出会ったら、声をかけてくださいね。

今年はお兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に沢山の思い出をつくっていききたいと思います。

皆さん、よろしくお願ひします。

(通所保育士 三山)

「元気にスタート! 始園式」

4月2日、桜の木も、花よりも葉っぱの方が多くなってきた頃、久山療育園重症児者医療療育センター通所事業では今年度から通所を利用される石堂結乃さんと竹内涼さん、そして宇宙6名が加わった59名の仲間たちと共に始園式が行われました。

山田理事長、宮崎センター長のお話が終わわり、石堂さんと竹内さんの自己紹介が始まりました。期待と不安を感じながら話をされる親御さんたちを見てみると、今年度から通所に配属されたスタッフも「頑張らないと!」という気持ちで、緊張で表情を引きつらせていくのがよくわかりました。

しかし、利用者さんや親御さんの笑顔を見たり、話を聞いたりしているうちに、この

一年、どんな楽しい思い出が作れるのだろうか、不安の中にも期待や楽しみが、どんどん膨らんでいる感じがしました。運動会や園外活動、それにクリスマス会、他にも色々な行事がありますが、どれも皆さんと一緒に思いっきり楽しんでいきたいと思っています。そして、利用者さん達や、親御さん達から元気をもらい、スタッフ一同頑張っていきます。

(通所介護福祉士 古賀)



通所でがんばっています!

山田 聖さん

僕は去年の4月から、皆さんの仲間入りをさせていただいている山田聖(さとら)です。4月で二十歳になりました。愛称は「聖くん」とか、ママ友からは「サトちゃん」と呼ばれています。

僕は小さい頃から、絵本の読み聞かせや、ラジオなんかをいじることが好きです。でも!何と言っても、ヒトが一番大好きです。

好きなキャラクターは、映画「男はつらいよ」の寅さんや、「釣りバカ日誌」の浜ちゃん。「三丁目の夕日」など、昭和な映画が大好きです。

訓練の時間には、ウォーカーで歩くこと、電動車椅子で移動することを楽しくしています。

(母代筆)



「母より」
赤ちゃんの頃は「世界の子守歌」：ブラームスやモーツァルトなどを、聴かせていたのですが、どこかで方向が大きく変わってしまいました。若い女性はもちろん好きだけど、実は!老若男女と幅が広いんです。
母も月曜メンバーの仲間に入れてもらって、色々勉強させていただいています。母子共に「通所でがんばっています」
皆さん、よろしくお願ひします。

(母 山田 弘子)

めぐみ棟園外活動

福岡タワー&TNC会館

2013年4月26日、今年度の最初の園外活動へ。めぐみ棟入園者、入山秀美さん、中山剛さん、広池彰彦さん、村上幸彦さんの4名で行ってきました。朝から出かけることでテンションも上がり、皆さんはすでに、笑顔いっぱいです。福岡タワーへは、都市高を利用し大きな橋を渡り、福岡ヤフオクドームを横に見て、あっという間に約30分のドライブで到着です。まずは、福岡タワーに上り、約40秒程で展望台に到着。普段、見慣れない高い所からの景色に大興奮。海を見たり、山を見たり、福岡の街並みも楽しみながら、「あっちの方向に久山療育園がある。」などの会話も聞こえてきます。

タワーから降りると、ついにお待ちかねの食事の時間。オムライスに日替わり定食、お惣菜とたくさんのごちそうを前にして、みんな良い表情。あっという間に完食し大満足。しばらく、ゆつくりと過ごし、TNC会館へ。ロボスクエアに入り、お話をするロボット、「アイボ」など、かわいいロボットと触れあい、またまた大満足。ロボットのショータイムではみんな集中して、見入っていました。最後には、ロボットからティッシュももらい楽しい時間を過ごしました。

楽しい時間もあつという間に過ぎ、帰る時間。帰る頃になると、みんなが飛んでいきそうなほどの強風が……。その中で海風にも負けずに最後にアイスクリームを食べました。(たくさん、こぼれましたが……)

帰りのバスの車内では、みんな楽しそうな表情で笑い声やいびき??が聞こえたりと、楽しむことが出来たのではないかと思います。

今年度初の園外活動は無事に終了することが出来ました。後は、他のみんなからたくさんのおいしい思い出話を楽しみにしようと思います。

(めぐみ棟介護福祉士 島津)

エアに入り、お話をするロ



「展望台からの景色に笑顔いっぱい！」



「福岡タワーにて」

こちら☆ひかり新聞社!!

この度、『ひかり新聞社』という活動が始まりました。ひかり棟の精鋭たち5名が毎週取材活動を行っているのです。

現在の活動内容は、運動会や園外活動など楽しかったことの記事を集めたり、園内のいろんな秘密を聞いてまわったり……。毎回、いろんな人たちに出会い、お話を聞くのが楽しみです。

名刺配り。こ

れも一つの営業活動です。1人1人が個性的な名刺を持っていて、出会った人に配っています。1枚ずつ手作りなのでキラキラしていたり、写真付きだったり、直筆サイン入りもあります。世界に1枚の彼らの名刺を、ゲットしてみたい。

最後に、ちょうど今頃創刊号が掲示されます。「目指せ! 愛の



名刺交換 営業活動中

手」を合言葉に、園内の様々な情報を楽しくお伝えしていきたいと思っています。何か秘密を見つけた方は、ぜひひかり新聞社までご一報を。

(ひかり棟保育士 陣内)

いつも、ありがとうございます

一九八一年より現在まで、福岡県理容生活衛生同業組合粕屋支部の床屋さんたちが、二か月に一回、お店がお休みの月曜日に散髪ボランティアとして来園して下さっています。

最初は、組合員数名が個人的にボランティアを始められたのがきっかけだったそうですが、今では、組合支部全体の活動として拡がっているようです。今回は久山町、今回は粕屋町...という風に、ブロック毎にローテーションを組んで活動されています。

みなさん馴れた手さば



きで、入園者の動きに合わせて丁寧な散髪をして下さいます。

入園者の皆さんは、バリカンやはさみで髪を切ってもらうと、みるみるうちにすっきり綺麗になり、自然と笑顔になります。また、髪を切ってもらっている間のみなさんとの会話も楽しみの一つです。プロの床屋さんには髪を切ってもらうことは、入園者にとっても楽しみの一つであります。お忙しい中、お休みを使って来て下さっているみなさんに、毎回心から感謝しております。

(療育課長 山田いずみ)

福岡特別支援学校入学式

今年度は、たくさんの方が入学・再入学されました。入学者は、中学部1年に安成志津子さん。高等部1年に、古賀豊さん・山口久美さん・矢山一美さん・矢津里恵子さん・岡本修一さん・池田三国さん・内田裕美子さん。高等部2年に山崎和樹さん・坂田康記さんの全員で10名です。心より御祝い申し上げますとともに、福岡特別支援学校訪問教育一同心より歓迎いたします。

入学式は、4月9日に合同で久山療育園にて行われる予定でしたが、ひかり棟療育重点病棟で風邪が流行っていたため残念ながらめぐみ棟2名と、ひかり棟LCU2名のみでそれぞれの病棟で行われました。式はとても和やかで、特別に校長先生からのプレゼントもあり、喜びに包まれて行われました。ひかり棟の4名の新入学生と再入学の2名の方については、病棟の様子を見ながら後日に式を行う予定です。

いよいよ新学期です。今年は新入生を加えると、総勢22名の皆さんが特別支援学校の生徒として、一緒に学ぶ事になりました。楽しく賑やかに共に学習に取り組んで行きたいと思っています。よろしく願います。

(福岡特別支援学校訪問教育職員一同)



「みんなの生きる力に支えられて」

めぐみ棟看護師の山野祥子さんへインタビュー



めぐみ棟看護師の
山野祥子さん

今回は、久山療育園でのお働きにこのたび10年の表彰を受けられた、めぐみ棟看護師の山野祥子さんにお話を聞いた。

Q:「看護師を目指したきっかけは？」

A:「基本、人と話すこととか関わるのが好きだから目指したんです。なんとなく思ったのは、アニメのキャンディ・キャンディを見た時かな。看護師さんという職業があるんだあと、それで知ったので、実際に真剣に考えたのは高校生の時かな。人と話して関わっていく中で、自分が成長できるような仕事がしたくて。動くのが好きと言うか、じっとしてられない性分なので。」

Q:「何かあったらすぐに率先

して動く、ということですね。久山に勤められて10年ということですが、その前はどちらにお勤めだったのですか？」

A:「その前は一般病院と、老人ホームとで働いていましたね。それから久山に。」

Q:「一般病棟とか老人ホームとか、久山のような重症児者の方とそれぞれ違うと思うのですが、看護をする上で心がけていることは何ですか？」

A:「看護に限ったことではないと思うけど、人と接する上で、自分が楽しくないと相手も絶対楽しくないだろうなと思うから、楽しいことをするときは自分が心の底から楽しもう！楽しくみんなと関われるように、と心がけています。」

Q:「先日、勤続表彰式にご出席されて、いかがでしたか？」

A:「人がすごく多くて：びっくりしました。こんなに多くの人が重症児者とともに働いているんだなあと。鳩が二羽飛んでいる、可愛い表彰状を頂きました。あとはね、やっぱり緊張しました。こういう舞台は苦手なので。でも、宮崎先生はじめ久山の方々がいらっしやうから、恥をかかせてはい

けないと思って頑張りました。」

Q:「重症児者との10年の関わりを振り返ってみて、どのように感じますか？」

A:「そうですね。みんな生きる力が強いなと思いますね。働き始めた頃は仕事を覚えるのに一生懸命で。そしてここで結婚して出産させてもらって子供を育てさせてもらって。スタッフのみんなや利用者の方々、そのご家族の方々との関わりが、その力がすごく大きかったなと思いますね。ここだからこそ、働きながら頑張ることができたんだと思います。みんな、いろんな思いを抱えながらしっかりと生きています。そのみんなの生きる力に、私のほうが支えられていると、すごく思いますね。」

Q:「久山に来てよかったと思いますか？」

A:「思います、思います！私は岡山にある、附属の福祉施設がたくさんある看護学校に行っていたんですけど、そこで初めて重症児者の方と関わって久山のことを知ったんです。そして、いずれ久山で働きたいなと思ってたんです。それで何年か経って電話をかけてみたら、今は看護師が

いっぱいですって断られたんです。10月か12月くらいだったかな。そしたらしばらくして4月から働きませんか？電話がかかってきて。それでここで働くようになったんですよ。」

Q:「そういう経緯があったんですね。では、仕事をしていて一番嬉しいと感じるのはどのような時ですか？」

A:「いろいろあるけれど、やっぱり行事の時とか、みんなと一緒に楽しめる時が一番楽しいかな。運動会だったり誕生会だったり、クリスマス会だったり：みんなが元気で参加できて、一緒にそういう時間を共有できる時が一番嬉しいですね。」

Q:「みんなが楽しんでいる時が一番楽しいということですね。今度の運動会、雨という予報ですよ。」

A:「おかしいね。私は晴れ女なんだけどね。私も晴れ女なんですよ。じゃあ、絶対晴れるよ！晴れますように。」

Q:「ですね。きつと晴れますね！ところで、お休みの日は何をして過ごしていますか？趣味とかは？」

A:「私、趣味がなくて。誰か、私に合う趣味を見つけてっと思っています。休みの日は、家の掃除をしています。だ

からみなさん、私によさそうな趣味があったらぜひ紹介してほしいと思います。でも、みんなであつて！とするようなことと、歩くのは好きです。学生のときはソフトボールをしていたけどもうダメやね、体力が。歩いていると、普段は車で通って気づかないことに気づいて楽しいですよ。こんなところに面白い置物がある、とか、道路のこんなところに穴ぼこがある、とか。そういうのが楽しいかな。そして将来は、久山で食介できたかなと思います。食介とか、お風呂の介助とかをしたいな。それができたら私の人生幸せやなあと 생각합니다。利用者のみんなの楽しいこと、嬉しいこと、気持ちいいことのいいこと取りでみんなとずっと関わっていたいな(笑)。

「将来は久山で食介をするのが夢という山野さん。山野さんが、どれだけ久山が好きかということがインタビューを通して伝わってきました。晴れ女二人での笑いの絶えないインタビューのおかげ(?)か、運動会は快晴のなか行ことができました。これからも山野さんの明るく爽やかなお人柄で、みなさんの心を晴れやかに、互いに生きる力を強め合っていてください。」

(インタビュー／事務部 高野)

バプテスト「コローニー友の会」より

第3回「久山療育園のために」チャリティー「コンサート」報告

「久山療育園のために」チャリティーコンサートが昨年、一昨年に引き続き今年も2月23日（土）に西南学院大学チャペルにて開催されました。

今回のコンサートは昨年のもより大きく変わった部分がいくつかありました。出演者の数は昨年は5組だったものを3組に減らし、一つ一つのプログラムを充実させることにしました。また毎年開演前に上映していた久山療育園紹介DVDをプログラムの中に取り入れることにより、ご来場頂いた皆様に久山療育園とはどのような施設かを知ってもらう時を持ちました。出演者は西脇八重子さんによるパイプオルガン演奏、昨年

に引き続き平和1丁目フラチームの皆さんによるフラ讚美、そして毎年出演頂いているメンバー全員が西南学院OBのテレベルトグループの3組でした。出演者数は減りましたが、内容は一つ一つ充実し、会場全体が温かくとても心地良い空間となりました。

来場数は昨年と比べると少々減りましたが、400名弱の方々が足を運んで下さいました。私は久

山療育園職員として、そしてコローニー友の会運営委員のメンバーとして当日はスタッフとして働かせて頂きました。コローニー友の会運営委員の一人であり、チャリ

ティーコンサート実行委員長でもある高良研一氏、西南学院大学宗教部の篠田裕俊室長や、(株)キャンパスサポート西南の船越寛治氏をはじめとしたスタッフの皆さん、久山療育園職員が協力し合い、とても良いコンサートを作ることが出来ました。

当日のチケット販売約60枚を含め、合計約420枚のチケットを販売することが出来ましたことを感謝いたします。その結果、当日会場での募金や西南オリジナルグッズの販売利益を含め、最終的な収益金50数万円を全額久山療育園へ寄付させて頂きました。

ご来場頂いた方の感想の中には「1回で色々な音楽の楽しさを感じることができた」「幸せなひとときをありがとう」「出演者の方々、来年も是非お願いします」というような声がいくつか寄せられました。久山療育園に入園されてある利用者ご家族の姿もあり、

そのご家族からは「このような形で久山療育園のために取り組んで下さっていることに感謝いたします。こういった支援の輪がさらに広がることを願います」という声もありました。

このチャリティーコンサートはたくさんの方に久山療育園を知ってもらっても良い機会となっております。来年も皆様のご協力により、西南学院大学チャペルでの4回目を開催できるようにお祈りに覚えていただけましたら幸いです。

バプテストコローニー友の会運営委員
久山療育園 相談支援員
中野 みゆき



メモ帳

部からの参加者約30名）▽26日 ひかり棟防災避難訓練

【1月】

▽17日 平成24年度病院立入検査（粕屋保健福祉事務所より4名）、西日本新聞三宅記者が園の在宅支援プロジェクト事業の取材のために来園 ▽24日 通所成人式（24名参加、新成人うち3名）、西日本新聞三宅記者来園（通園成人式の取材と在宅保護者の方への取材のため） ▽26日 認定看護師研修運営委員会（福岡長崎施設看護部長7名） ▽29日 今年度中途入職者対象防災避難訓練

【2月】

▽1日 各棟節分行事、八女市ひだまりの里より見学（1名）
▽5日 通所保護者懇談会
▽6日 支援事業連絡協議会相談支援専門員部会（外部からの参加者約20名）、農振除外申請等の打合せのため来園（久山町田園都市課2名他） ▽7日 宇美教会から見学（3名）
▽11日 玄関ロビーエレベーター修理 ▽12日 コローニー友の会運営委員会 ▽18日 安全対策委員会 ▽23日 第15回チャリティーコンサート（西南学院大学チャペルにて）
▽21日 福岡特別支援学校高等部入学者選考試験 ▽22日 1・2月合同誕生会 ▽25日 福岡県在宅重症児連携会議（外

【3月】

▽1日 福岡特別支援学校高等部卒業式（福岡特別支援学校にて対象者3名）、ひな祭り
▽2日 九州地区重心研究会（九州大学病院百年講堂にて、職員24名参加） ▽4日 福岡女学院大学子ども発達学科実習（2名） ▽3/15まで、日本バプテスト社会福祉事業団体連絡協議会（博多グリーンホテルにて 山田理事長、セクター長、事務局長、事務次長）
▽8日 正門前横断歩道信号機稼働、福岡特別支援学校中学部卒業式（福岡特別支援学校にて、対象者1名）、福岡特別支援学校小学部卒業式（対象者1名） ▽9日 2012年度第3回保護者会役員との懇談会 ▽21日 九州バプテスト神学校第23回卒業式・感謝礼拝（大名クロスガーデンにて 山田理事長） ▽22日 通所ワックス掛け ▽25日 福岡特別支援学校 合格者説明会 ▽26日 バプテスト福岡地方連合少年少女会（医療スタッフとして野口主任参加3/28まで） ▽28日 通所春休み（3/31まで）、福岡看護高等専修学校見学実習（学生34名、引率4名来園）

平成25年度 ボランティア講習会

○開催日時

- ・夏季コース 7月6日(土)
- ・冬季コース 11月9日(土)
- 9時30分～15時まで
- (※昼食はお弁当を用意しております)

○内容

- ・久山療育園と重症児者について
- ・ボランティア活動の紹介
- ・ボランティアさんの体験談
- ・保護者の体験談
- ・入園者との交流

ご質問・お問い合わせ先

092-976-2281 (代)

ボランティア担当 山田(建)まで

● 活動内容 ●

- 食事介助
- ベッドサイドでの絵本読み
- サークル活動・行事への参加
- ベッド拭き・車椅子拭き
- 洗濯物たたみ、縫い物作業
- 窓拭きやベランダの清掃
- 入浴後のドライヤーかけ
- コーヒー販売

重症児者へ関心をお持ちの方なら、どんなにでも受講できます。どうぞお気軽にご参加ください。



ボランティアだより

ボランティア活動のご案内

久山療育園には毎年多くのボランティアさんが来て下さり、様々な活動を通して園のためにご協力頂いています。

年に2回ほど久山療育園のボランティアとはどういったものかご紹介する「ボランティア講習会」を開催しております。本年度も左記の日程、内容で行う予定です。いづれも同じ内容で行いますのでどちらかのコースをお選びください。

第37回開園祭のご案内

テーマ 「障がい児者総合支援の実践」

2013年9月23日(月・祝日) 9:30～14:30

久山療育園重症児者医療療育センター室内および野外にて実施

今年も、地域の方々に沢山おいで頂き、利用者の方々やそのご家族と触れあっていただきたいと思います。また、収益は2014年度より建築開始予定の「在宅支援棟・ケアホームひさやま(仮称)」の建築献金に用いられます。

どうぞ皆様お越し下さい。

スケジュール

感謝礼拝	10:00～10:50
公開療育	11:00～11:30
ふれあい広場	13:00～14:00
チャリティバザー	11:30～14:30
喫茶・食堂・模擬店	11:00～14:30



歩行器



二〇一三年度が始まりました。

時折の雨や寒さの残る日を重ねながら、春が静かに深まって行くように、在宅重症児者の方々とそのご家族の存在が報じられる機会が、少しずつ見受けられるようになったと感じています。

街頭募金で配られる久山療育園のちらしを真剣に読んでくれる少年少女に出会う度、私たちは勇気づけられます。また、長年保護者や支援者の皆さんとともに、利用者の方々にとっての病院であり、学校であり、家庭であるうとしてきた久山療育園の働きは、いつもイエス様に寄り添って頂きながら、地域や行政からも理解を示されている事も感じます。

法律の名称や制度の形が変わっても、いつも私たちを見ていて下さる多くの支援の在る事に立ち返り、これから取り組みを深めようとする新しい働きを、勇気と喜びを持って進める事のできる年度にして行きたいと思っています。これまで通りに、利用者の皆さんの澄んだ目に励まされながら。

(T・M)